

関係団体の意見

【平成15年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見
海面漁業関係団体	<ul style="list-style-type: none">・ 連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量の把握に、今後とも努めてほしい。・ 排砂と魚の生息への影響との因果関係について、今後とも調査地点、方法を含め検討してほしい。

【平成15年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見
内水面漁業関係団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排砂前に放流した7,630kgの湖産鮎の殆んどが海に流され再遡上しなかった。排砂後に放流した2,070kgも餌となる珪藻が流失したために痩せ細り、頼みの地鮎の成長も遅れ12節の網で捕獲できるようになったのは8月の上旬となるなどの被害が出ているのに「問題となるような現象は見られなかった」とすることは到底理解できない。問題となる現象の判断基準を明らかにされたい。 ・ 平成12年度は排砂せず抑制策がとられたことにより、黒部川の鮎は久し振りの豊漁となったことは周知のとおりである。16年度は排砂を見送り抑制策を実施し、排砂した年度と比較すれば排砂がもたらす被害状況ははっきり表れるし、前述の「問題となるような現象は見られなかった」という言葉は出ないものと確信する。将来に禍根を残さないためにも16年度は排砂を見送り、徹底した調査を実施することも選択肢の一つと思料する。 ・ 排砂の影響は鮎に限ったことではない。イワナ、ヤマメ、カジカ、サクラマス等を含めた魚族への影響についての調査は、方法、場所等について、現場論を尊重されたい。 ・ 排砂がもたらす河川状況の変化、とりわけ愛本から下流の10箇所程度で小粒径化の進行状況、平坦化の進行状況、土砂の堆積状況について排砂前、排砂後に調査を実施されたい。 ・ 評価委員会の委員並びに土砂管理協議会の委員には現地踏査をされ、排砂時の状況をよく見て頂きたい。

【平成15年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見
農業関係団体	・排砂による農業用水の取水停止に関しては、施肥時期と重ならなかったため、問い合わせや苦情は殆ど聞こえなかった。毎年排砂実施が地域の農業者や住民に大分浸透してきたものと思われる。